



「地球温暖化の危機を実感」

兵庫県 子供の家 三浦 正

カナダから帰って間もなくノーベル平和賞の発表があり、思わず運転中にもかかわらず拍手をしてしまった。ゴア氏とIPCC、両者とも地球温暖化防止に貢献したことが認められたわけで、今後の世界各国の取り組みに大きな影響を与えることになるものと期待している。

拍手の理由は、カナダの気候が異常だったからで、危機を実感して帰国した直後の平和賞発表だったからである。トロントでもモントリオールでも、人びとは皆半袖、短パン姿で通りを歩いていたのだ。ホテルの部屋に至っては、21℃のエアコンが作動している始末であったのだ！！

“この世のものとは思えない”と表現されるアメリカ北東部の紅葉、特にカナダケベック州の楓の紅葉を期待してこのツアーに参加したのに！！である。どこもかしこも緑したたるありさまであった。有名なメープル街道も、行けども行けども一面の緑色ばかり！！

結局皆に注意を受けて持参したももひき、マフラー、コートなどまったく不要。いつも長袖をたくし上げて全日程を終了したのだから、異常気象と言わざるを得ない。

カナダがそれであるから北極海の氷が解けて無くなるのも当たり前。先住民イヌイットの体内から先進国の種々の残留性汚染物質が検出されているという現状から、今や人類は心底から反省し、便利な生活を見直すべき時期に来ているように感じさせられている。

これに加えて旅のスケジュールも過酷であった。エコノミークラスのためほとんど眠れずに、まして

横になることもできずに過ごさざるを得なかった。さらに加えて、エネルギッシュな森田団長は一切のスケジュール変更もせず、全日程を消化した上に期限付のレポート提出を義務づけたのである。見事な頼もしい団長であった。

現在私が所属しているカトリック伊丹教会のアメリカ人司祭ハーン神父の故郷バッファロー（トロントのすぐ近く：ナイアガラ滝）にも行けず、かつて洗礼を受けたカナダ人司祭アンドレ神父の故郷ケベック市（モントリオールのすぐ隣）にも行けずに、ひたすら団長に追い回されて研修に励んだのである！！

このため、自分のレポート担当のYMCAに行った折には極度の疲労状態で、立ったままでも眠れるほどであった。

日本の多くのYMCAのモットーは、“旅人をねんごろにもてなさない”（新約聖書ヘブライ13章の2：旅人をもてなす事を忘れてはいけません。そうする事で、ある人達は気づかずに天使達をもてなしました。）というものだから、カナダでも良いお茶と席がサービスされるだろうという期待も空しく、およそ2時間YMCA会館内部を歩き回らされた。

今回の研修の最大の成果は、参加者の一人82歳の川本敬一郎先生と知り合えたことである。私は今、“気づかずに神様をもてなしてしまった”のかも知れないと感じさせられている。それほどの良い出会いだった。感謝である。

私の生涯の師酒井哲雄先生（現日本キャンプ協会会長）と同年なのだから、不思議な出会いとしか言いようが無い。